

一般社団法人 日本雑草学会 和文誌「雑草研究」執筆要領

1. 原稿の体裁

原稿本体は Microsoft Word 文書ファイル形式で作成する。用紙設定は A4 判縦置き横書きとし、上下左右に 3 cm 以上の余白をとり、1 頁 36 字×28 行 (2.5 頁で刷り上がり約 1 頁) となるように作成する。和文誌 Web サイト (<http://wssj.jp/publish/>) 上のテンプレートファイルを利用することを推奨する。本文は日本語口語文で記述し、漢字は特に必要な学術用語などを除き原則として常用漢字を用いる。図、表、写真の内部やそれらのタイトル・説明 (キャプション) では和英併記を認める。

2. 原稿の記載項目

原稿は以下の順序で構成する。

- 1) 和文表題、2) 著者全員の氏名、3) 著者所属・連絡先、4) 英文表題・英文著者名・英文所属 (以上、1 ページ目)。
- 5) 和文要約・キーワード、6) 欄外見出し (以上、2 ページ目)。

3 ページ目から、7) 本文、8) 引用文献。

新たなページから、9) 英文要約・英文キーワード。

- 10) 図表およびその説明 (各ページに 1 図または 1 表)。
- 11) 電子付録 (特に必要な場合)。

なお、原著・短報・総説以外の論文ではこのうち英文要約を必要としない (英文キーワードは必要)。

3. 和文表題

論文の内容の概要あるいは一部が既に日本雑草学会講演会等で発表されている場合、表題の右肩にアスタリスクを上付き (*) でつけ、次の行で上付きアスタリスクに続きその旨を記載する。

4. 著者全員の氏名

責任著者名の右肩には星印を上付き (*) でつける (筆頭著者であってもつける)。複数の著者名の間は中点 (・) で区切る。著者が複数でその所属機関が異なる場合には、それぞれの氏名の右肩に所属機関ごとに番号を上付き (1, 2, 3, …) で付して区別する。研究機関に所属しない著者にも独立した番号をつける。複数の機関に所属する場合や、研究実施時と論文刊行時の所属機関が異なる場合は、それぞれに異なる数字をつけて併記し、その間はコンマで区切る (コンマも上付き指定)。

5. 著者所属・連絡先

上記 4. で付した数字に従って著者全員分の所属機関・部署名を記す。研究機関に所属しない著者については居住地を都道府県～市区町村まで表記する。責任著者 (Corresponding author) の所属機関名にのみ、その所在地住所 (郵便番号から) と電子メールアドレスをあわせて記載する。

6. 英文表題・英文著者名・英文所属

英文著者名は姓・名とも省略せず表記する。責任著者の所属機関名にのみ、住所をあわせて記載する。所属の表記法は上記 4, 5 に準じる。

7. 和文要約・キーワード

要約は原著と総説では 500 字以内、それ以外の論文では 300 字以内とする。キーワードは 5 語程度とする。

8. 欄外見出し

本誌掲載時のページ上部にヘッダーとして印刷されるもので、20 字以内とする。

9. 本文

原著・短報・技術レポートでは、原則として、緒言、材料および方法、結果、考察 (または結果および考察)、(謝辞) の順とする。官公庁、大学、財団などからの研究補助金を受けた場合には、謝辞の項にその旨を記載する。

10. 用語

作物、動植物などの生物の和名は原則としてカタカナで書く。雑草の和名、学名は原則として「日本雑草学会 Web サイト上の雑草名リスト (http://wssj.jp/academic/weed_list.php)」に従って記載する。それ以外の和名、学名を使う場合には、引用元を明記する。なお、学名は表題、要約および本文のそれぞれにおいて和名の初出に続けてかっこ書きで入れる。ただし、よく知られている種の場合には表題の学名を省略してもよい。また、本文中に記載する植物名のうち、研究の主たる対象ではない場合も学名を省略してもよい。和名がない場合は現地名と学名を使用する。除草剤の名称は原則として「雑草学用語集」に従った一般名を用い、必要に応じて化学名 (英語表記)、商品名および販売元を一般名の次に併記する。生物の学名や化学物質の化学名では、それぞれの表記ルールに従い、必要な語をイタリック指定する。数字は原則として算用数字を用い、半角で入力する。人名には原則として敬称をつけない。

11. 数量の単位

数量の単位は SI 基本単位を原則とする。単位、術語の略字および使用できる非 SI 系単位では以下の例による。

単位量あたりの単位については、原則として以下の例のように上付きのマイナス乗にて表す。

長さ: km, m, cm, mm, μm

面積: km^2 , m^2 , a (10 a), ha

容量: L, m^3

重量: g, kg, ton(s)

時間: sec, min, hr, day(s), week(s), month(s), year(s)

温度: $^{\circ}\text{C}$

濃度：%, N, M, ppm, mg g⁻¹

電気量：V, A, W, Ω, S

放射能：dpm, cpm, Bq, Sv

圧力：Pa, mmHg

光量：μmol m⁻²s⁻¹

その他：pH, pF, Eh, rpm, J, °, ', "

除草剤の使用量は有効成分量で示す（例：g a.i./ha）。成分量で示すことのできない場合あるいは必要に応じ製品量（例：g/10a, mL/10a）による記載、併記も認める。

なお、土地面積あたりの数量（使用量や収量）等については上記のようにスラッシュ「/」を用いることも可とする。

12. 引用文献

本文中での引用文献は、著者が1人の場合は例えば、白倉（1996）、（白倉 1996）、2人の場合は佐合・浅野（2008）、（佐合・浅野 2008）、3人以上の場合は浅井ら（1995）、（浅井ら 1995）、英文文献では上述の漢字表記の部分英文字とする。2人の場合は著者を and で結び、3人以上の場合は Asai *et al.*（1995）、（Asai *et al.* 1995）とする。また、2つ以上同時に引用する場合は発表年次順・著者のアルファベット順に記載（浅井ら 1995; 白倉 1996, 1997a, b）する。

引用文献の項目では、記載順序は筆頭著者の姓のアルファベット順とする。同一筆頭著者（単独名を含む）の場合は年次順とする。同一筆頭著者で同一年次の場合は年次の後に a, b などをつけて区別する。

学会講演要旨は引用文献として認めない。ただし、雑草研究 52 巻以前の別号（講演要旨）については、緒言などで過去の研究事例の存在を示す場合にのみ、編集委員の許可のもとに引用を認める場合がある。53 巻以降の別号は引用を認めない。

DOI, ISSN および ISBN を付与されていないオンライン書誌や資料は、信頼のおける機関により公開され、その内容が十分な価値を有する場合にのみ、編集委員の許可のもとに引用できる。

（学術雑誌から引用する場合）

藤田究 1996. 水稻乳苗の生育に及ぼす数種土壌処理型除草剤の影響. 雑草研究 41, 44–54.

Powles, S.B., D.F. Loraine-Colwill, J.J. Dellow and C. Preston 1998. Evolved resistance to glyphosate in rigid ryegrass (*Lolium rigidum*) in Australia. Weed Sci. 46, 604–607.

佐合隆一・牛田勝弘・松田照男 1996. イボクサ (*Murdannia keisak* (Hassk.) Hand.-Mazz.) の発芽特性と除草剤に対する感受性. 雑草研究 41, 344–349.

（単行本を引用する場合）

Zimdahl, L.R. 1999. Fundamentals of Weed Science. Academic Press, San Diego, pp. 41–54.

鷲谷いづみ・矢原徹一 1996. 「保全生態学入門」. 文一総合出

版, 東京, pp. 15–18.

（共著の単行本の一部を引用する場合）

Marshall, G. and R.P. Finch 1997. Molecular ecology: its role in studying herbicide resistance. In “Weed and Crop Resistance to Herbicides” ed. by R. De Prado, J. Jorin and L. Garcia-Torres, Kluwer Academic Pub., Dordrecht, pp. 192–208.

森田竜義 1997. 世界に分布を広げた盗賊種セイヨウタンポポ. 山口裕文編著「雑草の自然史—たくましさの生態学—」, 北海道大学図書刊行会, 札幌, pp. 192–208.

（Web 資料を引用する場合）

中央農業総合研究センター 2011. 総合的雑草管理 (IWM) マニュアル. <http://narc.naro.affrc.go.jp/result2p/images-r2p/iwmanu.pdf> (2011 年 8 月 12 日アクセス確認)

Kendig, A. and R. Smeda 2003. Weed control guide for Missouri field crops. http://plantsci.missouri.edu/deltaweeds/pdf/mo_weed_guide_2003.pdf (2011 年 8 月 7 日アクセス確認)

13. 英文要約・英文キーワード

英文表題はゴシック体で記す。原則として語頭のみ大文字とし、以降は小文字を用いる。但し、頭文字が常に大文字で記される語などは通例に従う（例：Change in weed control studies of rice paddy fields in Korea.）。著者名は名 (first name)・姓 (family name) の順とし、それぞれ語頭のみを大文字とし（例：Takashi Yamada）、名の省略形は用いない。連名の際は、最後の著者名とその前の著者名を “and” で結び、それ以外の間はコマで区切り、“&” は用いない。責任著者と所属の区別は、和文表記と同様に記号を付記して記載する。英文要約は和文要約を英訳したものを基本とする。キーワードは和文キーワードと一致させるが、配列はアルファベット順とする。

英文要約については受理前に著者側において英文校閲会社または英語を母国語とする人による校閲を受けることを求める場合がある。

14. 図表およびその説明

投稿時は図・表とも本文ファイルの末尾に貼り付けることが望ましいが、画質やファイルサイズの面で難しい場合は別ファイルとして添付することができる。図表には第 1 図、第 2 図……、第 1 表、第 2 表……のように通し番号をつける。図の説明（キャプション）は投稿時は図の直下に記載する。図表の挿入位置は本文原稿の右側余白に矢印で指定する（例：←第 1 表、←第 1 図）。

原図は印刷時に十分な解像度となるように作成する必要があるが、投稿時には取り扱いやすいファイルサイズとなるよう、読解にさしつかえない範囲で圧縮してもさしつかえない。印刷時の図の大きさは編集委員会で決定するが、本文組み 1 段の場合は横幅 80 mm、2 段通しの場合は横幅 170 mm、高さは説明を含めて 225 mm が上限となる。写真も図という表現に統一する。図を本文と別ファイルとして添付する場合

は、1図ごとに1つの画像ファイルとするか、もしくはPDFファイルで1ページに1図とする。図は白黒（グレースケール）を原則とするが、カラーも認める場合がある（著者の実費負担）。

表を本文と別ファイルとして添付する場合はExcelブック形式で保存し、1表ごとに1つのシートとし、1つの論文で1ファイルとする。

図表の書き方、様式は和文誌 Web サイト上のテンプレートファイルおよび最新号の会誌を参照すること。

15. 電子付録

印刷に適さない大きな表や精細カラー画像を電子付録としてJ-Stage上で公開することが可能である。ただし、電子付録掲載の可否は編集委員会において判断する。電子付録をつけたい場合は付図1、付図2、……、付表1、付表2、……の

ように番号をつけ、投稿時には本文とは別のファイルとして添付する。

16. 入稿用原稿の提出

入稿用原稿の提出先は受理通知時に指示する。入稿用原稿では、図表は原則として本文とは別ファイルとする。その他、ファイルの形式や体裁の調整・最終確認を著者に依頼する場合がある。

(付則)

2019年4月19日決定

2020年3月1日変更

2021年2月23日変更

2022年8月21日変更